

六甲カトリック教会報

2005.6 No.402

6月のお知らせ

	教会暦	教会行事
1	水 聖ユスチノ殉教者	
3	金 イエスのみ心(祭日)	初金 7:00、10:00ミサ (15:00~聖体顕示式)
4	土 聖母のみ心	第56回結婚準備セミナー終了
5	日 年間第10主日	
8	水	10:00 シルバーコース神戸地区の集い
11	土 聖バルナバ使徒	
12	日 年間第11主日	10:15 小教区評議会
13	月 聖アントニオ(パドバ)司祭教会博士	
19	日 年間第12主日	
20	月	14:00 三日月会ミサと例会
21	火 聖アロイジオ・ゴンザガ修道者	
24	金 洗礼者聖ヨハネの誕生(祭日)	
26	日 年間第13主日 聖ペトロ使徒座への献金	10:00 ブックフェアとミニバザー
27	月	11:00 ベビーとママの集い
28	火 聖イレネオ司教殉教者	
29	水 聖ペトロ 聖パウロ使徒(祭日)	

雨がもたらす爽り

雨の続く、鬱陶しい季節になりました。梅雨は、春から夏に移りかわる季節にみられる、東アジア特有の雨の時期です。毎日じめじめと不快で、日常生活には甚だ厄介な季節ではありますが、この時期にたくさんの雨が降ることには大きな意味があります。

例えば、田植えが終わり、成長を始める水田の苗は、太陽のふりそそぐ暑い夏に備え、この雨の恵みによって潤され、培われて、秋にはたわわに穂を実らせる稲になります。いわば、梅雨は稲にとって、秋の刈り入れを迎える準備の期間です。

神さまに向かって歩いているわたしたちの信仰生活も、神さまにたどりつくための準備の期

間と言えるのではないのでしょうか。マタイは、「わたしに従いなさい。」というイエズスさまのことばに、何の迷いもなく、すぐに立ち上がって従いました。(マタイ9:9-13)

マタイのように、躊躇せず全てを置いてすぐに神さまに従うことは、弱い私たちには不安で難しいことです。心配しなくとも、神さまがその都度、その都度、“ひと”という苗に、雨(=必要なもの)を与えてくださいます。

毎日の信仰生活において大切なことは、神さまの呼びかけにすぐに応えること、すぐに応えられるよう常に準備をしていることです。聖書には、「~だろう。」「~ではどうだろうか。」というイエズスさまのことばは一切ありません。

常に確信にみちた、権威のあることばです。神さまの呼びかけは命令です。わたしたちは、それにすぐに応えていかなければなりません。

列王記の中で、エリシャは、彼がそこを通るたびに立ち寄って食事をするよう勧め、泊まっていけるよう小さな部屋まで準備をしてくれたシュネムの婦人にこう告げました。「来年の今ごろ、あなたは男の子を抱いている。」(列王記下4:8-17)

病気でも、年老いても、子育てが終わっても、定年を迎えても、それぞれの場で、まだまだ何

か使命があるはずで。個人個人に与えられた責任の中で、派遣された社会や共同体の中で、神さまに呼ばれていることを確かめ、培ってゆく。互いに祈り合い、支え合って、神さまに向かって歩む。神さまの呼びかけに耳をすませ、その呼びかけを意識して、常にチャレンジしながら生活していくよう心がけてみてはいかがでしょうか。その先には祝福の結果として、たわわに穂を实らせた自分の姿があるはずで。

God bless you.

祈りのうちに。

バレンタイン・デ・スーザ S.J.

各 部 会 だ よ り

👉 壮年会

男の料理教室:6月15日(水)

次回の例会は7月10日、安芸神父様のお話の予定です。

👉 婦人会

3日(金) 初金 ミサ 10:00

その後、聖体顕示式がございます。多数の方の参加をお願い致します。

< 6月掃除当番 >

3日(金) 西3・西4・西5

10日(金) 東1・東2

17日(金) 東3・東4

24日(金) 東5・中1

👉 三日月会

6月第3月曜(6/20)、14時からミサ・例会を行います。5月例会のビデオの実績に依って、6月もビデオを上映します。

👉 青年会

定例会 12、26日(日)12:30~14:00

於: 第3会議室

内容: 聖書研究(指導: 高山神父)

初めての方も是非気軽に参加下さい。

👉 社会活動部

『今月の連絡会は開きません。』ご注意下さい。次回は7月1日(金)初金のミサ&婦人会例会の後、13時頃より始めます。

1日(水)10:00~ 手芸の集まり

小物づくりを致します。手芸に興味のおありの方、何方でもご参加下さい。

11日(土)9:30~ 炊き出し

六甲教会で準備し用意が出来次第、小野浜公園に移動いたします。

24日(金)14:00~ お握り作り

須磨方面、夜回りの為。

26日(日)9:00のミサ後、ブックフェア&ミニバザー

パウロ会のシスターが書籍の販売に来られます。併せて社会活動部のグループに依る物品販売を致します。沢山ご来場、ご協力下さい。

「シナピス神戸」動き始める

神戸地区の11小教区の社会活動部と9修道会そして活動センターで構成される「シナピス神戸」が長い準備期間を経てようやく動き始めました。大阪教区の新生計画の方針に従って、教区シナピスと連携をとりながら、正義と平和に基づき一人一人が大切にされる社会を目指し、その為に必要な活動を行うことを目的として、ネットワークと協力体制を構築し、情報交換を

図り、より活発な活動を助ける役割をはたしてゆきます。

代表はたかとり教会の鈴木さん、副代表は明石教会の柏原さん、担当司祭は、兵庫教会の吉岡神父様です。事務所は社会活動センター内に設置され、六甲教会の山本順子さんが週2回シナピスデスクで事務を担当してくださいます。定例会は奇数月の第2日曜日の午後2時から、各小教区、修道会回り持ちで開催されます。7月10日は六甲教会で開催されます。よろしくお願いいたします。

「シナピス神戸」の運営費は各小教区、修道会、構成団体の年会費（25000円）と寄付金収入で賄われます。そして、その一部が須磨夜回り、活動センターの活動支援金として使われます。また今年度はパソコン購入にも使わせていただきます。決して潤沢な運営費ではありませんが、経費節約を心掛け、有益に使わせて頂きます。

今年度の活動の手始めは、まず小教区、修道会、活動センターの社会に向けた活動を知り、情報交換、問題の分かち合いを行います。そして小教区にとどまらず、活動を広げたいという希望を持つグループの参画を募集しております。「シナピス神戸」が神戸地区社会活動の情報交流の場となり、皆様と共に活発な活動を展開して行きますようご理解とご協力をお願いいたします。長瀬三千子

👉 典礼部

第1回「典礼勉強会」報告

4月30日（土）10:00～12:00 典礼部主催、信徒による典礼勉強会は14人が集いました。ローマ・ミサ典礼書の総則（暫定版）の第1章を読み、分かち合いました。何気なく読み飛ばしているところ、深く考えなかったところにある意味の深さに気付かせてもらいました。私たち一人一人は、能動的にごミサに参加します。六甲教会共同体のごミサが、もっと豊かで、忠実であるように考えましょう。

次回は7月30日（土）10:00～12:00、第2章、第3章について考えます。

典礼奉仕者の集いにご参加ください。

6月26日（日）14:00～、典礼奉仕者の集いを第一、第二会議室で行います。典礼奉仕者、また奉仕に参加ご希望の方はお集まりください。

👉 養成部

5月7日の委員会に於いて2005年度プログラムの大綱が決まりましたのでお知らせ致します。どうぞお時間を上手に作り出して、それぞれのプログラムにご参加下さる事を期待しております。

祈りの道場

第1回 7月30日 指導 英神父様

昨年は30名の定員でしたが今年は枠を広げて70名とします。参加申し込みは6月27日から7月18日の間に箱を置きますので、参加ご希望の方はお名前を書き入れて下さい。

第2回 10月1日 指導 池長大司教様

第3回 11月5日 指導 池長大司教様

ウルトラ級に超ご多忙の大司教様が私達の祈りを直接助けに来て下さいます。感謝です。

平和旬間

平和旬間と云えば今迄は当然の様に広島、長崎を意識しましたが、今年は視点を替えてみました。今、私達の生活は平和ですか？ 平和な生活とはそれぞれがあるべき所にあるべき姿で存在することでもあると思うのです。魚は水の中を泳ぎ、鳥は空高く舞い、獣は野山に踊り、木々は大地に根を張り……神様がお決め下さった所に決められたように生活しているように、あらゆる生物の中で神様の似姿として創られた人間は神様と一緒に暮らすべきなのではないでしょうか（創1:27）。しかし蛇の誘惑に負けて神様から離れた昔を思い出すまでもなく（創3:1-6）、神様に敵対し滅びへの道を辿り、霊的に死んだ状態にある人間は神様より快的な生活を求め、お金はあってもあっても足りない思いであれば平和である筈がありません。神様が私達を創られる時、鋳型で創られるのではなく、一人一人を個性豊かに創って下さるのは最高の恵みです。一雫の露、青葉を渡る風のそよぎに心をふるわせる美しい感性を戴いた日本人は、神様に対し、世界に対し、破壊されて行く自然に対し

て和解し良い関係をとりもどして、平和を造り出す者となるのを神様は待っておられるとおもいます。

<平和旬間プログラム>

- ・ 8月6日
午後1時 講演会
講師：境野勝悟（さかいのかつのり）先生
18年間栄光学園で教鞭をとられ、現在大磯でこころの塾を開かれている東洋思想家。
午後2時40分 ミニコンサート
- ・ 8月7日
午後1時30分 近隣教会との合同礼拝
奨励：神戸聖書教会 水口 務 牧師

聖書朗読リレー

8月27日 今年も沢山の方の参加をお待ちしています。

聖書講義

10月15～16日 雨宮慧神父様による聖書講義

📖 図書紹介

『石ではなくパンを』
フェミニスト視点による聖書解釈
E.S.フィオレンツア著/山口里子訳
新教出版

「女性の視点から見ると世界も人間も異なっ
て見える」と言い続ける女性の声を諸学問は沈
黙させてきた。聖書学・聖書解釈も例外ではな
い。聖書は自己確立、解放などを求めて闘う女
性を攻撃する武器として用いられたことも多い。
またこの闘いで、勇気、希望、参加への源とし
て女性を支えた聖書の力に著者は注目する。

本著では、その抑圧的な力と解放の力の両方
が認識されることを目的とし、批判的な読解と
フェミニスト視点による評価という弁証法的な
プロセスを経て論議をする際に生じる聖典に関
する諸問題が紹介される。次に、牧会神学、解
放の神学、倫理学によって提起されている歴史
的、批判的聖書解釈の諸問題について、伝統的
学問諸分野や前世紀フェミニストたちの論議を

📍 地区会

集会予定：中央区地区

7/3(日) 11:00のミサ後、第4会議室

解説し、従来の聖書解釈を弁護や、攻撃排除するのではない第三の立場として、著者が提唱する「注釈学」の説明がある。最後に、カトリック女性として育った自らの経験で聖書を読んだ背景から、各人が「在る」場でそれぞれの「問いかけ」をして、過去に書かれた聖書から、現在、未来へと生きる力が得られると述べている。

次の二つの言葉に従来とは異なった意義が与えられているのに注意したい。

「父権制」は男性優位社会ではなく、従属と搾取の等級付けを持つピラミッド型の社会であり、「フェミニズム」は、その社会で抑圧、周縁化などに苦しむすべての人を含む。

この定義で読むと、「時代を超えた不変の神の言葉が刻印されている『石の板』という聖典の比喩を、不正と抑圧に対抗して闘う女性たちに神の民としてのエネルギーを与える『パン』と言うイメージに変革していくプロセス」としての「注釈学」が理解できるのではなからうか。

(曾我 邦子)

『生涯養成コース』に参加して

さる4月29日から2泊3日の日程で神戸セミナーハウスにおいて教区生涯養成コースが催されました。参加者54人、当教会からは若い3人の方が参加し、感想を寄せていただきました。

「教会って、信仰ってなんだろう」と問われて参加してみました。今回の生涯養成のコースで、このことについてたくさんのお話を聴くことができました。この会は、もちろんカトリックの信仰を持つ人たちの養成のための集まりですが、一言でカトリック信者といっても六甲教会の中ですらあまりたくさんの人たちと関わろうとしていなかったロンリーウルフ族の私ですので、同じカトリック信者が老若男女さまざまであるという当然のことに、少し驚いてしまいました。あたりまえですが考え方も十人十色です。

この養成コースは、分かち合いが中心のプログラムです。会場の家庭的なあったかい雰囲気の中で、心がほぐされていくのを感じました。教会・信仰とは何かという問いに、私が自らの信仰の歩みを思いおこすとき、教会はその基となっている大切な場所です。教会での人との出会いを通してキリストと出会ってきたのだと思います。パウロを導いたバルナバの存在を考えたとき、バルナバはキリストから派遣された生きた教会だと思いました。私もバルナバのような人に出会って今日までできました。バルナバのような人に共通して言えることは、相手のことを大切に思って育てようとしてくれていたことです。キリストと出会うということは、相手のことを大切にすると出会うことであり、教会はその人たちの集まりであることが理想的です。

たくさん分かち合いを通して、そのことを確認すると共に、教会が共同体として更に成長を求められている時期にきていることも知りました。つまり、福音宣教する共同体になることです。そのために教会が生活に活力を与える場であり、私たちがキリストから社会に派遣されなければならないと思いました。

私にとって信仰は、まだまだ完全なものではありません。いつもキリストのように考えられたらよいのですが、ほとんどの場合、エゴで判断します。が、たちどまって振り返ったとき、キリストの思いを知ることもあります。

2泊3日の最後に、派遣のためのミサをしました。教会・信仰について深く考え、たくさんキリストに出会った私たちのミサは、少し感動的なものでした。私たちひとりひとりが教会から派遣され、生きた教会として社会においてキリストを証することができたら、それらの人の集まりは福音宣教する共同体になりうるのではないのでしょうか。 (中村真理)

私は4月29日から2泊3日の日程で神戸セミナーハウスにて行われた生涯養成コースに参加して来ました。テーマは「信仰って、教会って何だろう！ 福音宣教する共同体となるために」というもので、北は北海道、南は九州までの各地から信徒54人が参加しました。いくつかのプログラムがあり、7人のグループでの分かち合い形式でした。

ここで、分かち合いの中で印象に残った話を1つ書きます。「教会は健康ランドだ」というたとえ話です。信徒は客として健康ランドを利用します。温泉は気持ちよいです。ところが突然、「これからは健康ランドの従業員として働いてほしい」と頼まれます。従業員になれば、温泉から出なければいけません。清掃も必要です。客はこの頼まれ事を当然の如く拒みます。自分が気持ちよければいいのです。こうなれば、温泉は人でいっぱいとなり、新しく来た客は温泉に浸ることが出来なくなります。この温泉によって得られる気持ちよさは勿論、個人の信仰のことです。個人の信仰も大切にすべきことですが、共同体としての歩みがなければ教会は滅んでしまいます。このことは我々の大きな課題の1つだと思います。

生涯養成コースでは普段あまり個人では考えないことを問題として捉えるので、1つの良い機会だと思います。全国各地から来られた信徒の方々と交流できたのも良かったです。興味がある方は是非とも参加してみてください。 (吉村光基)

市外東部〔宝塚、伊丹、尼崎〕地区会（愛称：Dog Wood）報告

日時場所：2005年5月7日 六甲教会

安芸神父、コーディネーター福田、折川氏を迎え、総名10名出席して開催。

この地区の会員数36名のうち、出席数7名の少数ではあったが、案内の回答率は83%であった。つまり、出席数は少ないものの、関心度は高い。広大な地域に少数の信徒が散在する当地区でも、今後の運営法について、活発な意見交換が行われた。僭越ながら小生の意見を述べさせていただきます。

- 1、年1回の地区集会 日曜日のミサ後 神父、コーディネータを招いて集会開催。
- 2、年何回か〔なるべく多く〕喫茶店のような簡単な場所での情報交換、一人暮らしの老人訪問について話し合う。
- 3、地区集会開催案内状は往復はがきとし、返信用はがきを信徒の考えを知るアンケート用とするため、内容充実を図る。
- 4、地区会専用のアンケート用紙とその回答箱を教会に常備する。

思いつきで書き、申し訳ございませんが、地区会が教会発展のための原動力となると思う時、できることから始めたらと考えています。 (小林正治)

鶴甲・六甲台合同地区会参加の記

5月14日土曜日、六甲学院にて鶴甲・六甲台の合同地区会集会が開催されました。11時から野外の小聖堂で赤松神父様の司式によるミサが、木漏れ日の降り注ぐ中で行われました。

鶴甲地区から11名、六甲台地区から9名、計20名という大勢の方々の参加を得て、ミサに続くお弁当でのランチ・自己紹介へとピクニックの雰囲気全開の中で進みました。3歳から80??歳までのウルトラマンの歌あり、漫談あり、古き良き六甲学院の思い出話ありの楽しい自己紹介に大笑いさせて頂き、食後はサツキの美しい遊歩道の散策・・・。

設置から後片付けまで皆さんで力を合せての共同作業で、共通の楽しい思い出が作れたことを感謝しながらの散会となりました。合同集会も素敵ですね。 (久野万里子)

神戸バイブル・ハウス「聖書リレー朗読会」

神戸バイブル・ハウスで5月9日正午から13日午後4時まで、一人15分ずつ昼夜連続で、創世記から始まり、100時間400名を越えた聖書リレー朗読会が大会会長を務められた池長大司教様の黙示録の朗読で、無事終了しました。事務局からお礼と御報告を頂きました。当六甲教会も、トップバッターのオマリー神父様から始まり、計19名が登録、延べ29回朗読に参加しました。

「この預言の言葉を朗読する人と、これを聞いて、中に記されたことを守る人たちとは幸いである。時が迫っているからである。」(ヨハネの黙示録 - 3)

一言一言聖書のことばを思いを込めて、声を出して読むことの大切さと緊張の心地よさを感じ、恵みの時を過ごせた事を感謝いたします。

超教派のエキュメニカル行事として実行委員の内山さんはじめ参加者の皆様、お疲れ様でございました。 (藤井恵津子)

「国際協力の日」に参加して

聖霊降臨の5月15日、カテドラルで「国際協力の日」2005 が開催されました。テーマは今年も「外国人が暮らしやすい社会は日本人も暮らしやすい」です。外国人信徒と日本人信徒、カトリックとプロテスタントがさまざまな違いを乗り越えて、一堂に集まり、共生をめざすお祭りです。

11時からのミサには1100人ほどの各国の方たちが溢れんばかりに集い、英語、スペイン語、韓国

語、ポルトガル語、ベトナム語、中国語を交えての国際色豊かなミサが捧げられました。ミサの中で歌われる歌は荘厳というよりもリズムカルで楽しく、明るく喜びに溢れたものでした。拍手をしたくなるほど素晴らしい歌声を聞かせてくださった方もいました。言葉や、国籍、民族が異なっている、神様を信じる心はひとつ。みんなの心がひとつの体になった、聖霊降臨の日にふさわしいミサでした。

ミサ終了後、隣の越中公園で、賑やかに国際交流のイベントが繰り広げられました。国際色豊かな自慢料理やお菓子の屋台、雑貨などの店が並び、何を食べようか迷うほどでした。特設舞台では、華やかな民族衣装を身に纏った、さまざまな国の踊りや歌が披露されていました。外国の方たちはこの日を皆で集まる日と決めているようで、会場は大賑わいで、こぼれんばかりの笑顔で満ち溢れていました。私たちが関わっている難民の皆さんも、シナピスのスタッフと一緒に、会場の整理や、写真班で活躍しておられました。忙しそうに生き生きと働かされている姿を見て少し安心しました。フィリピンのサマサマバンドのパワフルな演奏にあわせ、皆、エネルギーに踊りまくり、心からお祭りを楽しんでいました。私達のボス、篤子さんも乗りに乗って踊っていました。若いな～。みんながひとつになってこの日を盛り立てたことは、きっと、また明日からの原動力になるのでしょうか。今日の企画、運営をなさったシナピスの皆様、有難うございました。楽しい一日でした。



難民支援グループ「ルチア」長瀬三千子



大きな壺とおいしいコーヒー



あの日、先生は重い荷物を持って教室に入りましたから、受講生はびっくりしました。

空っぽの壺を見せてから、ゴルフのボールをいっぱい入れました。「これでこの壺は満載していますか?」「はい。」と受講生は答えました。次に小さな石を入れました。小さかったので、容易にボールの間に入りました。「これでこの壺は満載していますか?」「はい。」と皆は答えた。さらに砂を入れて、砂も容易に入りました。そして最後に、何とコップに用意したコーヒーも入れました。「さて、諸君、やったことの意味が分かったのか?」今度は「いいえ。」という答えでした。「説明しますから、よく聞いて下さい。」

「人生の壺には先にもっとも大事なものを入れるべきだ。もし先に砂でいっぱいになれば、後で何も入れることができない。ゴルフのボールは神様への愛、家族、神様から与えられた使命です。小さな石は、私たちに必要なものです。住むところ、仕事、食事など。砂は他のほとんど価値のない毎日のものです。これで分かったか?」「はい。」しかし一人は手を挙げて質問しました。「でも、先生、入れたコーヒーは?」

「これはよい質問です。これは次のことです。もし私が教えた通りにすれば、友達とおいしいコーヒーを飲む時間もまだあるはずです。」

あの日、幾人かの受講生は自分の人生の壺は砂だけでいっぱいであることに気が付いたそうです...

ヨンパルト神父

ヨンパルト神父様は、故郷マヨルカ島で療養し、4月末にお元気で日本に帰られました。5月は韓国での講演等があったため、六甲教会には6月16日から来られます。再会を楽しみにお待ちしております。

図書室 新着図書より NO.2

「ネイティブ・インカルチュレーションの時代」

福音とグローバル世界の出会いの神学

佐久間勤 編著

サンパウロ

文化内受容などとも訳されるインカルチュレーションとはどういうことか、何を指すのか。キリスト教と日本文化の出会いや初代教会の教父に見られるインカルチュレーションの事例などを挙げながら多くの研究者が論じ合った上智大学神学部夏季講習会での講演集。

「東洋思想とカトリック神学」

現代カトリック思想叢書 12

M・ハインリッヒス 著

サンパウロ

長年中国や日本の思想を探求し続けたドイツのカトリック神学者による著作。公会議以前に書かれたとはいえ、これからの宗教間対話を実り豊かにする上でも本書のもつ今日的意義は誠に大きい。

ネメシエギ師推薦。

「ヒッポのアウグスティヌス」

- 教皇ヨハネ・パウロ二世の使徒的書簡 -

カトリック中央協議会

偉大な教父と称えられるアウグスティヌスの名高い回心から1600年目に当たる1986年に発表された教皇ヨハネ・パウロ二世の書簡。ひたすら道を求め続けたアウグスティヌスの生きざまに深い洞察を加えて、わかり易く今日なお色あせることがない。

「遠藤周作その人生と「沈黙」の真実」

山根道公 著

朝文社

遠藤周作の代表作である『沈黙』その背後にある遠藤の人生について、母親郁、井上洋治神父、棄教神父や病床体験等の関わりを考察。そして原題である「日向の匂い」に込められたテーマを、多くの資料を緻密に読み込むことで浮き彫りにした渾身の力作。

山根氏は気鋭の遠藤文学研究者。

「笑いの力」

筒井康隆、養老孟司、河合隼雄 著

岩波書店

3人の識者が、古今東西の笑いを考察し、人間の生き方や社会の仕組みを変えていく上で笑いの持つ効用を論じ合った。閉塞した日本の状況に風穴をあける笑いの旋風が楽しめる。

「恵みのとき - 病気になったら」

晴佐久昌英/詩・文

サンマーク出版

病気になったらどどん泣こう、またとないチャンスをもたらしたのだ……。その著「だいじょうぶだよ」「星言葉」などによって、みずみずしい感性と霊性で全国に共感を呼んだ著者（神父）の作。美しいイラスト入り、病者への贈り物ともなる一冊。

六甲教会図書室

信徒会館 2 階

お好きな本を見つけに

お越し下さい。



2005年初聖体・祝福式の感想

こどもたちの感想

私ははつせいたいパンをもらいました。パンのあじはアイスクリームのからみみたいなあじがしました。パンは、まん中に、十字かの形が書いていました。はつせいたいをうけたのは三人で、しゅくふくをうけたのは八人です。入場は二れつにならんで、ろうそくをもって歩きました。ミサがおわって、ごはんができました。食べる前に、ケーキをみんなできりました。たのしかったです。

(バルバラ片山知音)

にゅうじょうするときすごくどきどきしました。「パンのあじは、どうなんだろう」と、おもいました。パンをもらってうれしかったです。パンをまえにもっていくとき、りりちゃんのかみのけにパンがついていたのでわらっていました。それでリーダーにいいました。パンのあじはおいしかったです。

(クララまつ元ゆか)

しんぷさまといろいろなことをやくそくして、イエスさまの体、ごせい体をいただきました。なにもあじはしませんでしたが、食べたあとは、心が晴れたような気がします。しんぷさま、シスター、リーダー、はつせいたいにむけていろいろおしえてくださってありがとうございます。

(マリア宗行里々子)



祝福式と初聖体は、4月3日に行われました。わたしは、神父様やみなさんに祝福していただき、かんしゃしています。わたしは、はじめてこういったことで、おいわいしてもらったので、どきどきしました。こういうふうにつぎの二年生もみなさんや神父様方においわいしていただけますように。わたしは、とてもうれしかったです。

(吉田奈央)

今日、教会のミサでしゅくふくをうけた。花のかんむりをかぶって、白いふくをきた。さいしょは、しんぞうがドキドキして、いがとび出しそうだったが、さい後には、トクントクンと、いつものうごきかたになったから、ホッとした。ミサがおわり、パーティーがはじまった。ケーキをきるとき、きんちょうしたので、よこでみといた。

(久野雪乃)

わたしは祝福をうけてよろこぶぐらいうれしかったです。ろうそくの光もきれいでした。教会のみんながおいわいしてくれてとてもわくわくしてすごかったです。初せいたいをうけた人がとてもきれいでした。わたしは、パンがたべれるとおもっていたんだけどたべれなくてざんねんかったです。

(岩田すずな)

初聖体としゅくふくしきの時とてもドキドキしました。それからイグナチオホールにいどうしてからすぐおなかがいたくなり、もうがまんが出来なくなって家に帰ってびょういんへ行きました。きつととてもきんちょうしたからだだと思います。でもびょういんから帰って3時間ぐらいたったらとても元気になり、しゅくふくしきでいただいたケーキをたべました。とてもおいしかったです。

(太田りょうじゅ)



保護者の感想

4月3日神のいつくしみの主日。次女知音を含む3名の子供たちが初聖体を受け、8名の子供たちが祝福を受けました。おそろいの白衣に、お母様がた手作りの花の冠をつけた子供たちの姿は、それぞれにかわいらしく、成長を感じさせるものでした。ミサの始まる約5時間前に主の下へと旅立たれたヨハネ・パウロ2世も子供たちをご覧になって目を細めておられたことでしょう。

ミサの後の懇親会での子供たちの感想は、短いながらもそれぞれの個性を感じさせ、ほほえましいものでした。キリストの体である教会の一員として歩み始めた子供たちを、暖かく包み、励ましてくださった皆様のお気持ちがあふれているような懇親会、感謝の念に堪えません。これからも、子供たちに、いろいろとご指導くださいますようお願いいたします。子供たちが、これからの人生を、喜びのうちに主とともに歩いていけるよう祈ります。

(片山知音 父 片山啓)

祝福式の朝は、まだ時々小雨の降るあいにくのお天気でした。

初めての経験に娘も心なしか緊張しているようでしたが、祝福を受ける姿を見ていてあらためて我が子の成長を感じることができました。

ご縁あって教会学校に通わせて頂き、たくさんの方々と知り合い、神様のことを学ばせて頂き、そして多くの方々から今回祝福して頂ける機会に与れましたことに感謝の気持ちでいっぱいです。娘にもこの日の嬉しかった気持ちを忘れず、これからもたくさんのことを学びながら、すこやかに成長していってくれば・・・と願っております。

親睦のつどいの後、外に出たときの暖かな陽射しが神様からの“おめでとう”のメッセージに感じられ、忘れることができません。

(吉田奈央 母 吉田佳子)

信 徒 動 静

【洗礼】おめでとうございます

5月8日 ルイ - ズ

古口 明日香
(11-東灘区)

【転入】これからどうぞよろしく

5月1日 マリア・プリシラ

井谷 ハル子
(29-灘区)

【結婚】おめでとうございます

5月14日 アンドレア

四方田 頼奈
四方田 小紋

5月15日 マリア・アグネス

福田 和美
(16-灘区)

【堅信】おめでとうございます

5月15日 マリア・テレジア
幼きイエズスのテレジア
マリア・フランシスカ
ミカエル
マリア・イマクラタ
ミカエル
ヨゼフ
クララ
セシリア
ルカ

志田 悠子
横山 繭
高橋 友望
小林 大紀
橋岡 貴美
松井 悠
甲斐 裕大
又吉 紗綾
尾崎 由紀
小林 航己

5月15日 マリア・ベルナデッタ
モニカ
マリア
小さきテレジア
ヨゼフ
マリア・ホアキナ
ヨハネ
フランシスコ・ザビエル
ネリサ・マリ

道上 友紀子
米沢 モニカ
高橋 愛満
沖田 恵
小川 瞭
植田 真依
甲斐 翔大
緒方 文洪
ネリサ・マリ・
フェルナンデス

各信徒のお名前の下に付記した番号、地区名は、六甲教会地区会の地区区分による新入、転入、転居先です。地区世話人の皆様のご確認をお願いします。

シルバーコース神戸地区の集いのご案内

大阪大司教区生涯養成委員会主催によるシルバーコースが6月8日(水)当六甲教会で開催されます。これは2年毎に催されるシルバー大会の間に、大阪司教区各地区で開催される集いです。今年度は神戸地区をかわきりに姫路、阪神、北攝の各地区で開催が予定されております。開催要領は下記の通りですが、神戸地区の集いを成功させるために、大勢の皆様のご参加をお待ちしております。

記

開催日時： 2005年6月8日(水)10時～16時
開催会場： 六甲カトリック教会
テーマ： 「主よ、一緒にお泊りください」
ミサ司式： 池長 潤大司教
参加費用： 700円

教会報7月号の発行は、7月2日(土)です。

編集会議は6月26日(日)です。

記事原稿は、6月19日(日)正午までに信徒会館事務室へご提出願います。(広報部)

<http://www.rokko-catholic.jp>

六 甲 カ ト リ ッ ク 教 会

〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21

電 話 078-851-2846

発行責任者 桜井彦孝 神父

編 集 広 報 部